

古屋市;小牧市;春日井市), ヨツボシカミキリ (名古屋市), オオシロカミキリ (名古屋市) などがあり, かつては豊かであった愛知県周辺の自然環境の変遷を知ることができる貴重な標本群となっている。

コレクションの保存と利用

豊橋市自然史博物館では, 寄贈を受けたコレクションについては, 由来(寄贈元)が分かるように標本1点1点に「穂積コレクション」「森部コレクション」等のコレクションラベルをつけ, 分類群ごとに整理している。オサムシ類のように地理的変異が顕著で, 1種についての個体数が多くなるものについては, さらに産地ごとにまとめて整理して配架, 収蔵している。ホロタイプについては, 一般標本と分けて保存しているが, パラタイプについては基本的に上記の一般標本と同等に扱っている。

コレクションラベルの添付は, 現在3名のボランティアが作業に当たり, 配架は筆者が行っている(ただし, 現在すべての分類群, 寄贈コレクションの整理が終了しているわけではない)。

収蔵標本の調査, 研究のための利用については, 筆者までご連絡をいただきたい。また引用した文献のうち, 豊橋市自然史博物館研究報告に掲載のものについては豊橋市自然史博物館のホームページ (<http://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/>) で pdf を公開している。また「豊橋市自然史博物館資料集」については残部があるものについては提供できるので, 希望者は筆者までご連絡いただきたい。

おわりに

以上, 豊橋市自然史博物館の甲虫コレクション

の概要について紹介させていただいた。甲虫コレクションは, 当館が収蔵するチョウやトンボ類に比べると決して充実したものではなく, 分野も偏っている。また地方の博物館が共通して抱える問題だと思われるが, 収蔵スペース, 標本箱や標本棚の不足, 標本整理にかかる時間の確保が十分できない等の理由により, 整理が行き届かないのが現状である。それでも, 愛知県産を中心とした地域の絶滅標本を散逸することなく保管できていることなど, 当館の果たしている役割は決して小さくないと自負している。

謝辞

当館に貴重な標本を寄贈していただいた方々, 長年にわたって標本整理を手伝っていただいている豊橋市自然史博物館ボランティアの皆様には厚くお礼申し上げます。また, 本稿の執筆を助めていただいた本誌編集委員の奥島雄一博士(倉敷市立自然史博物館)に感謝の意を表したい。

引用文献

- 長谷川道明, 1998. 昆虫類 1, 豊橋市自然史博物館所蔵クワタムシ科標本目録. 豊橋市自然史博物館資料集第6号, 43pp, 2pls.
 長谷川道明, 2001. 穂積先生のコレクション. 東海甲虫誌, 穂積俊文博士記念論文集, pp. 365-368.
 長谷川道明, 2002. 豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (12): 49-53.
 長谷川道明, 2017. 豊橋市自然史博物館に新たに収蔵された東海地方産絶滅危惧甲虫の標本について. 豊橋市自然史博物館研究報告, (27): 31-35.

(2018年2月7日受領, 2018年3月2日受理)

【訂正】

本誌 28 号 10-13 ページの「山口県におけるキボシチビコツブゲンゴロウの初記録と若干の知見」において, 本文中および付図タイトル中の植物名に以下の誤りがあったので訂正する。

誤) カナビキソウ

正) ネビキグサ (アンペライ)

(相本篤志 747-0806 防府市石が口 3-10-10-2-B202)

【訂正】

本誌 28 号 43-45 頁に掲載の鈴木・岩田・南「富山県のオオサルハムシ — 附: 本種の寄主植物に関する覚書 —」の 45 頁左上から 12-14 行目の「(現在, クサタチバナ *Vincetoxicum acuminatus* Decne. のシノニムとされている)」の記述は, 筆者らの不注意による誤記であるので削除する。ご指摘いただいた松尾照男氏(佐世保市)に深謝する。

(鈴木邦雄 939-0364 射水市南太閤山 14-35)